

北海道アイヌ建築の方向

—神窓の向き—

駒澤大学苫小牧短期大学(非) ○小林法道

【目的】北海道アイヌ建築には信仰のための神窓がある。その集落で最も崇拝されている神がこの窓から家族をやさしく見守っている。神窓は家族が常に神を意識しながら信仰心を維持していくための窓であり、住居内部に神聖な秩序を作り出している。文献によると北海道アイヌ建築は神窓の方向をもとに配置される。神窓の方向が北海道アイヌ建築の方向を決定している。これらの文献によると北海道アイヌ建築の神窓の方向は地域によって様々である。本論は文献をもとに明治時代から昭和20年頃までの北海道各地の北海道アイヌ建築の神窓の方向を編纂して、神窓の方向の彼方にある自然造形物(山、川、湖、海)を考慮しながら北海道アイヌ建築の方向を総括して、その原因を考察する。

【研究方法】本論が資料として用いる49冊の文献は調査報告書と論文と単行本である。49冊の文献の記載内容の根拠は①見学調査②北海道アイヌ人からの聞き取り調査③北海道アイヌ人の伝統技術に基づく復原建築の調査である。本論は北海道各地(35地域)の北海道アイヌ建築の神窓の方向を編纂して一覧表を作成し、神窓の方向の彼方にある自然造形物(山、川、湖、海)を考慮しつつ北海道アイヌ建築の方向を総括して、その原因を考察する。

【結果】北海道各地(35地域)の北海道アイヌ建築の神窓は山、川筋、湖、海に向いている。海から離れている地域では山や川の上流や湖にいる神が最も崇拝されていたからであろう。海に近いのに神聖な神窓を山や川の上流に向けて建築を配置する地域が多い。これらの地域では海にいる神よりも山や川の上流にいる神が最も崇拝されていたからであろう。海に近い地域で海にいる神が最も崇拝されていた地域は少ないと考えられる。